

受験英語を将来で役立たせる授業の取り組みとは

植藤崇悟（兵庫県立北摂三田高等学校）

研究動機

最近のテレビやYouTube をみていると日本人の英語力がほかの国と比べて、だいぶ劣っているように見える。受験英語を経験しているにもかかわらず、このようであるのはもったいないと感じた。受験英語をもっと活躍させることができるような、授業内でできる取り組みはどんなものなのか？

研究方法

- 1、本校と近隣の高校2校の2年生、加えて特に英語教育に力を入れる台湾の高校の2年生を対象としたアンケートをとる。
- 2、実際の英語の先生に意見をもらう。
- 3、アンケートのグラフを比較し、その相違点をもとに考察する。
- 4、アンケートの意見や英語に関する文献を調査。
- 5、2と3と4を考慮し、取り組みを考える。

研究結果

- 1) 受験英語を活躍させるために必要なもの

「英語のために自主的にしていることはありますか

＊複数回答可」という質問の上位3項目を国別で比較すると、以下の結果が得られた。

日本：1位 洋楽を聴いている 2位 特にしていることはない 3位 アプリで英語を学んでいる
台湾：1位 洋楽を聴いている 2位 洋画や英語のドラマを鑑賞している 3位 英語の記事やニュースを読んでいる

わかったこと

- ・洋楽はみんなが楽しめる
- ・台湾の生徒に比べて日本の生徒は実践英語に消極的

日本の学校での英語教育は英語の知識をインプットさせるのに優れているが、その知識をアウトプットする環境が明らかに不足していると思われる。

→やはり学んだことを発揮できる環境が必要。

- 2) 具体的な取り組み

他の国のほとんどが英語を「第二言語」と認識しているのに対して、日本はあくまで「外国語」として認識しているので、使用頻度が少ない。

それゆえ、日本での生活において英語は必須でないと考える人は多い。

また、日本の生徒で英語に興味を持つ人 51.3%に対し台湾の生徒が 78.4%であったことから、自ら英語を学ぶ人も少ないのだと思われる。

→これらの性質を補う取り組みかつ生徒にとって苦ではない取り組み

そのため、

アンケートで「今受けている英語科の授業の中でどんな授業が好きですか」という質問をしたところ

日本 1位 ALT の先生との交流 2位 ペアワーク 3位 発音練習
台湾 1位 ALT の先生との交流 2位 発音練習 3位 洋画を鑑賞する
両国共に「ALT の先生との交流」の人气が高い。

しかし、授業数の少なさゆえ英語の使用頻度を補えない。

したがって、今回は日本で次に人気のあるペアワークに着目する。

条件

実際、今行っている英語の授業内容は受験においても、コミュニケーションにおいてもとても重要な役割を果たしているため、本来の授業目的である「自分の意志を完璧でなくとも正確に伝えることができるような英語を身につける」に沿った上で、授業に支障をきたさない程度の時間で行わなければならない。

まとめ・展望

以上のことから、私は『あらかじめ決められた話題を1分～2分間、授業で学んだ表現や単語を使ってペアで討論する』という取り組みが「受験英語を将来で役立たせる授業の取り組み」の一つであると考えた。

今回の研究では特に「話す」という観点から考察したが、今後は「聞く」の観点からも研究を深めていきたい。

参考文献

- 1、<https://www.bizmates.jp/blog/global-society-english/>
- 2、https://www.rieti.go.jp/jp/columns/a01_0053_rd.html